

真宗大谷派 長浜教区 1・2月号

第24組 広報

発行日
2014年1月1日
第157号
発行責任者
組長 紘澤成互

年頭のご挨拶

組長 紘澤成互

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、組諸事業に対しご理解・ご協力を賜りましてありがとうございました。

さて、今日まで組の教化方針として「弥陀の本願を信じ念仏申さば仏になる」の「標」を掲げて参りました。阿弥陀様の本願の第一には「私の国には地獄・餓鬼・畜生の境涯の者は居ない。」と記されています。

しかしながら、今、有り余る情報に振り回され、私たちは、メール地獄・コンピューター地獄に陥っていたりしているのではないのでしょうか。

お正月は、家族が揃うまたとない機会なのです。揃って手次のお寺にお参りし、お内仏で正信偈を唱和し、雑煮を祝いゆっくり団樂を楽しみ乍ら、私の生き方や向かう方向について語り合ったら如何でしょうか。

加えて、人間として共に成長することの大切さを確かめ合って戴く、またとない機会ではないのでしょうか。本年もどうぞ宜しくお願いします。

新年のご挨拶

組門徒会長 小高寛三

新年おめでとうございます。

昨年、皆様方には門徒会事業に、多大のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。また、同朋大会をはじめ各種の組門徒会の教化事業にご参加をいただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、世相を表す「今年の漢字」に「輪」が選ばれました。これは東京五輪の開催決定や各地で相次いだ昨年の台風災害に対する支援、千日を過ぎた東日本大震災への継続した支援の輪の広がりがあったことからと新聞で見ました。この「輪」こそが、我々真宗門徒の同朋会運動にあります「人間の真の幸福」の求めであり、このような思いやりの心を養うことであると考えます。教区においても「米から繋がる未来へ」を継続的な支援活動とし、毎年末に被災地への訪問が行われており、これこそが真宗門徒の皆様方の支援の「輪」のたまものであると思います。

本年の組門徒会事業も年度後半となりましたが、組教化方針をもとに、各種の聞法の会の開催や同朋会運動の推進を図りたいと考えます。今後も会員皆様方のご理解をいただきながら、より充実した事業の推進に努めてまいりたいと考えております。どうか引き続き一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたしまして、年頭のご挨拶といたします。

二四組社会 問題研修会

題目「わが立つところを回つ」

十月十九日 午後七時三十分から 高月町東阿閉浄教寺様に会場をお世話になり社会問題研修会を開催させて頂きました。相撲の浄願寺のご住職澤面宣了氏を講師に迎え、二四組部落問題研修会、人権問題を通してお話をさせて頂きました。

澤面先生は、私達は **みんな多数(世間様)** になりがちです。「あの子と、付き合わん方がえんーで」と、誰か知らんけど、みんな言うて

んでー「わたしはようわからんけど、あの子に聞いてみたらいいやん」など、どこに立ってものを言っているのでしょうか？

一人の人と、本当に向かいあう事が大切で有ると、お話ししていただきました。後半は、VTRによる研修で、主人公がまさに先生のお話のごとく、人権問題に対して、**同調**(他のものと調子を合わせること)と**傍観**(物事の成り行きを自分の力で変えよとせず、何もしないで見ている事)して「僕はなにもしないのに」と悩む姿が印象的でした。

最後に4〜5人のグループ討議もして頂き、有意義な研修になりました。

於 浄教寺

社会部会 雨森善司

お寺の掲示板

ほんしゅうじ
本宗寺 (高月町磯野)

今回は、高月町磯野の本宗寺さんを訪問しました。磯野は、余呉川の側にある湖周道路を走ると山裾に磯野山城址と大きな看板があり、田んぼに囲まれた約八十戸の集落で、当寺は集落のほぼ真ん中にあります。

正面の右側に掲示板があり『忙しくて参る暇がない』という人は暇があっても参らない。仏法は、寿命(いのち)との競争である。蓮如上人は「仏法は、仕事の時間をさいても聞くように。暇があれば聞くというのはあさましい。仏法に明日ということはありませんよ。」(御一代記聞書)より』というお言葉が書かれてありました。藤井滉丸住職は、掲示板用の本から社会の実情などを考えて二ヶ月に一回掲示されることでした。

その内容は、「この頃、永代経などに参りが少なくなってきた。仏法に、気がないようになってきた。が、仏法は、聞いておかないと後で「あ、しもた。」と思っても遅い。生きているうちに多くの仏法を聞いてほしい。」とのことでした。

また、住職は、「願を信じて念仏を申す。ナムアマダブツ・・願とは本願で、父母、祖父母以前の方からずっと受け継がれてきて私がいる。その方々からだれの願いかわからないがその方の願いである。」とも、話して下さいました。

磯野は、仏法的な地盤で自然に恵まれ人情的に良いところである。ともお話しされていました。

皆さんも一度「本宗寺」さんに、お参りされ掲示板のお言葉に触れられたらと思いました。

(取材・広報委員 林)



上山奉仕に参加して

水上 滋 (布施・猶存寺)

今年度は初の試みとして、一泊二日コースの本廟奉仕を実施致しました。私も初参加でしたが、16名の皆さんと一緒に、本廟奉仕に参加させていただきました。久しぶりの東本願寺で、以前のイメージを想像していましたが、御影堂がりっぱに仕上がっていてびっくりし、荷物をその場において思わずみんなで合掌してしまいました。

御影堂を後にし、いよいよ同朋会館に入館し研修が始まりました。担当職員の方が親切に指導して下さいましたので、みなさん和やかな研修を受けることができました。

又、私たちの仲間から、弓削さんが導師に選ばれ、200名近い参加者の中でりっぱに読経をあげられ、みなさんから称賛をあげられました。

食事時間の短いには、少し不満だった様に思いますが、夜床につくまでの間、円座になって、時間を忘れて熱心に話し合い大いにもりあがり、さすがに24組の皆さんは一味違うなど、関心しました。

翌朝は、早朝より数名の方が、厳かに御影堂で帰敬式を受けられましたが、さすがに本山での帰敬式、厳粛で大変威厳に満ちたものでした。私も次回は是非参加したいと思います。

一泊二日コースで参加しやすい日程になっていますので、次回の本廟奉仕は是非みなさんの参加をお待ちしています。尚、同日程で組婦人会からも9名の方が奉仕上山されました。合掌



お正月のお荘厳

○打敷 ご本尊前、上卓・前卓（租師のご影等を奉安してあればそのご影前も）に打敷をかけます。打敷の色や模様には定めはありませんが、正月のことですから、明るい、まためでたい模様のものであれば一層よいでしょう。

○花 お花は若松の真、それに梅、南天・熊笹、柳、椿、水仙、寒菊などを適宜にあしらって挿し交ぜといたします。上卓の華瓶はもちろん「檜」です。

○お鏡餅 それから正月はお華東でなく、「お鏡餅」を各尊前、法名前にお供えいたします。お鏡餅はお内仏の大きさに合せて、あらかじめ木の輪型を作っておき、お餅をその輪型にはめてぬきますと重ねるにも形がととのいます。

中尊前は三重、その他は二重（または一重）を「折敷」に杉原紙（白紙）を敷いて供えます。

へ「折敷」とは 木の「へぎ」で造った、ちようど

お鏡餅ののる大きさにした白木地の台です。お華東は供筒に盛りますが、お鏡餅はこの折敷にのせるのが定めであります。ご本尊がご絵像ならば一基、お木像ならば左右一対おそなえます。お鏡

餅の上には、だいたい 橙、みかん 蜜柑、きんかん 金柑等その大きさに合ったものを、一、二、三葉の葉付のままのせます。

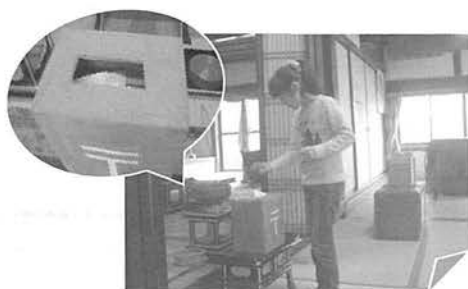
こども報恩講 ぼくの、わたしの、たいせつな…

12月14日(土)の午前10時から高月町布施の猶存寺にてこども報恩講が行われ、子ども13名、引率・保護者の方8名の参加でした。この日は昨夜から雪が降っており、朝もうっすらと道に雪が積もっていましたが、子ども達は元気よくお寺に集まって来ました。

始めに真宗宗歌、お勤めを行い、お話は猶存寺のご住職にして頂きました。次に、今回のテーマに沿って、それぞれの大切なものを考えて紙に書きました。その紙を「ポスト」に入れて仏様に見て頂き、その後ひとつひとつ読み上げていきました。大切なものが他の人と同じものであった一方で、違う場合もあり、自分が大切と思っていないものでも、他の人にとっては大切なものもある、ということ学びました。

その後、オリジナルの缶バッチを1人2個作りました。名札バッチを作ったり、友達とお揃いのペアバッチを作ったりと、様々な缶バッチを作っていました。缶バッチ作りが終わった後は自分の名前の字画を数えて、大きい数字の順に並んでガチャコロをしました。カプセルの中には数字の書いた紙が入っており、景品はお菓子でした。大きいお菓子(19番)が欲しい、と子ども達は大騒ぎしていました。しかし中々当たらず、一番大きいお菓子を当てたのは、なんと猶存寺のご住職でした。その後、猶存寺ご住職VS子ども達によるジャンケン大会が急遽行われ、勝ち抜いた最後の子どもが大きいお菓子を手に入れました。最後に恩徳讃を歌い、子ども報恩講は終わりました。

藤(青少年部会)



ポスト投かん!

景品のお菓子♪



当たったの!?

19番!

バッチ作りマシ〜ン★



どうやって作るのかな?

一番大きいお菓子は誰の手に?

【敬弔】 川那部誠氏を偲んで

去る十月二十九日、高月町西物部・雙林寺御住職川那部誠氏がご命終されました。ご生前のご活躍の姿を偲び、謹んで哀悼の意を表させていただきます。

氏は、二〇〇五年(平成十七年)四月より三年間当組の組長を務められ、大きなご功績を残してくださいました。ご苦勞をいただいた時代は、蓮如上人五百回御遠忌を終え、宗祖親鸞聖人七十五回御遠忌お待ち受けの準備に入る大切な時期でありました。

宗門を取り巻く重要な課題が山積する中、真宗の生活文化の回復にご尽力され、具体的な取り組みとして、迷信などの打破や真宗門徒の葬儀や法事の在り方など、組織化の中心事業として、学習と伝達に力を注いでこられました。

そして、仏法を中心とした家庭をつくることを願いとされてきました。そうした精神や取り組みが今日でも引き継がれ、多くの成果を得てきたと思っています。

氏の願いを忘れる事なく、混沌とする時代にあって、いよいよ仏道に精進させていただきたく決意を新たにしております。

本当にありがとうございます。そうしてご苦勞様でした。

(明徳寺住職 秦 信映)